

## 南足柄市立岡本小学校

研究テーマ：共に学びを深める子の育成  
～単元構想を生かした授業づくり～

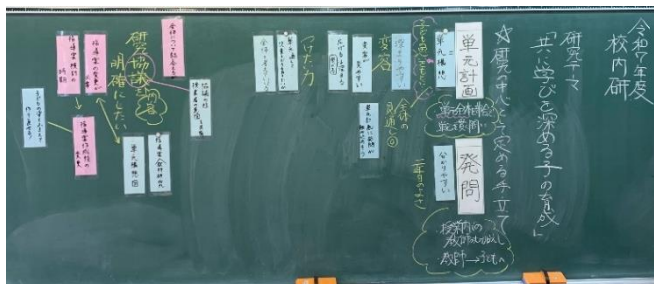
### 1 実践の目的

昨年度に引き続き、研究テーマを「共に学びを深める子の育成」として、授業改善に取り組んでいく。実現に向けた手立てを考え、検討していくことは、学習指導要領で求められている「生きる力」や本市の研究テーマである「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善にもつながると考える。

### 2 実践の内容

#### (1) 「単元構想」を手立てに

「共に学びを深める子の育成」をめざし、年度初めに、どんな手立てで研究をしていくのかを再検討した。1時間の授業を中心に研究するのではなく、単元全体を見通すことに課題があったので、今年度は「単元構想」を、学びを深めるための手立てとして研究を進めていくこととした。併せて、昨年度に研究の手立てとして設定した「発問」、「共有」、「個別最適な学び」についても引き続き取り入れた。また単元構想図を作成する経験が少ない教員もいるので、第1回の研究授業で単元構想の定義や進め方について職員全体で共有し、2学期からの実践につなげている。



#### (2) 研究への環境づくり

昨年度は、ローカル・スタディを学年団

で行い、児童の集団づくりについて共通理解した上でハブ・スタディ（授業研究）を進めていく際の土台として活用した。しかし、学年団での運用が難しいという課題があったため、今年度は環境づくりの進め方を見直すこととした。

1点目に、ローカル・スタディを運用当初の少人数の形に戻した。ローカル・スタディのよさは、教職員が少ない人数で個別最適な学びを進められることと、相談や雑談などを重ねる中で、同僚性が向上していくことである。この目的に沿って運用できるよう、3～4人のグループを作り、自己目標に向かっていけるような取り組みとした。

2点目に、「15分チャージの会」を活用した。必要感に応じてテーマを設定し、実践を共有している。ここに、これまで培ってきた学級会の進め方なども含めて、学習環境を整えていく。また、ローカル・スタディを行う場としての活用も考えている。

3点目に、OJT (On the Job Training) を導入した。企画会と並行して、ミドルリーダーが、若手教員に知識やスキルを伝達する時間を設けている。ここでは、各学級の家庭学習の取組やモジュールの活用法など、さまざまなテーマを扱っている。

### 3 実践の成果と課題

#### 1 ハブ・スタディ（授業研究）

夏休み期間中に、3つのグループに分かれ、1年国語「やくそく」の単元構想を作成した。授業者は、3つの単元構想をもと

に本単元を構成し、9月に授業を行った。本時に至るまでの単元構想とのずれは単元構想図に加筆・修正し、これまでの流れが見えるようにできたのはとてもよかった。また、研究協議では、研究主題でもある「共に学びを深める子」の姿を協議しただけでなく、授業後の単元構想を再検討する時間も設けた。これにより、参観者は自分の授業ではないが、自分の授業のように今後の展開について深く話し合うことができ、指導と評価の一体化を体感することができた。そして、その実感を基に各学級において授業実践を重ねたことで、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査（4月・12月実施）においても、児童がねらいをもって学習に取り組む意識が向上した。



## (2) 環境づくりに3つの手立て

ローカル・スタディでは、3～4人の小グループで簡単なアイスブレイクをはさみながら、各自が抱える課題を共有し、解決策や今後の方針について話し合うことができた。そして各々が日々の中で試した後、もう一度ローカル・スタディの時間を設け、現状を共有した。一定の解決が見られテーマを変えたグループや、前回考えた手立てではうまくいかず、もう一度検討し直すグループなど形はそれぞれであるが、自分たちに必要な形で、自律的に運用する

姿が見られたことは成果である。

15分チャージの会とOJTでは、学級運営や家庭学習、運動会についてなどさまざまなテーマで運用した。1つのテーマをもとに意見を交換することは、とても有意義な時間となった。一方これらの取り組みには課題も残った。15分という設定時間を超過することと、OJTは企画会と並行して実施しているので一部の教員が参加できないことである。今後は、時間や参加者に応じた設定や共有の仕方を工夫していく必要がある。

## 4 今後の展開

今後の授業研究では、2つの部会に分かれて授業者が選択した教科で単元構想を進めていく。これにより9月に扱った国語科だけでなく、さまざまな教科に反映していける研究をめざす。また授業研究は多大な労力を要するため、授業者と参加者にとって実りある学びの場としなければならない。どちらも主体的に学べるよう、今後は指導案検討のもち方や、研究協議の進め方、そしてふり返りの方法などを継続的にアップデートしていきたい。

環境面については、ローカル・スタディを運用する時間を今後も設ける予定である。しかしそれとは別に、教職員が日常的に交流し、課題解決や、同僚性の向上を図れるような環境を柔軟に整備していく。

15分チャージの会、OJTに関しては、今回の実践で得られた課題を踏まえ、それぞれの役割と運用方法をより明確に定めていく。